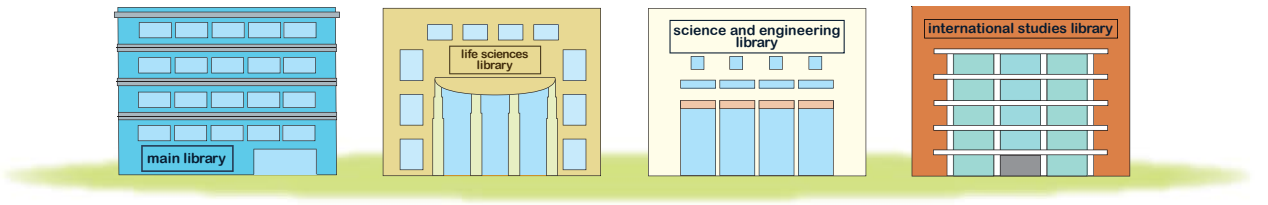
ISSN 0387-4400

http://www.library.osaka-u.ac.jp



March 2011

大阪大学図書館報

vol. 44 no. 3　通巻 174号

発行所　大阪大学附属図書館　2011年3月1日発行
〒560-0043　豊中市待兼山町1の4
e-mail: kohowg@library.osaka-u.ac.jp

CONTENTS

- LibQUAL+® による附属図書館アンケート調査の実施結果　…P. 1
- 【シリーズ図書室めぐり】
  - 産業科学研究所図書室　…P. 6
  - 微生物病研究所図書室　…P. 7
- 教員著作寄贈図書のご紹介　…P. 8
- News 図書館からのお知らせ　…P. 8

LibQUAL+® による附属図書館アンケート調査の実施結果

1．はじめに

附属図書館では、平成22年10月4日（月）から10月31日（日）までの約1か月間、利用者サービス向上のための図書館サービス評価と附属図書館の経営改善および事業計画策定のための基礎データ収集を目的として、Webによる図書館のサービス品質に関する利用者アンケート調査 LibQUAL+®（ライブカル）を実施しました。その結果概要を報告します。みなさまのご協力、本当にありがとうございました。

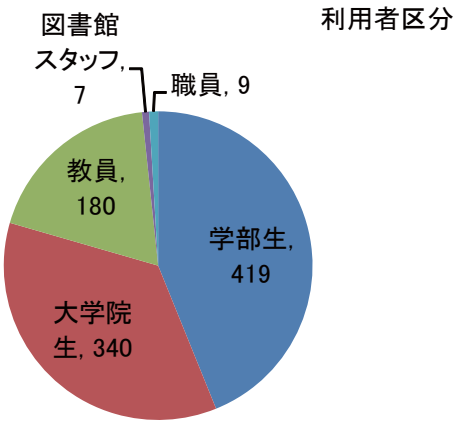
2．LibQUAL+® について

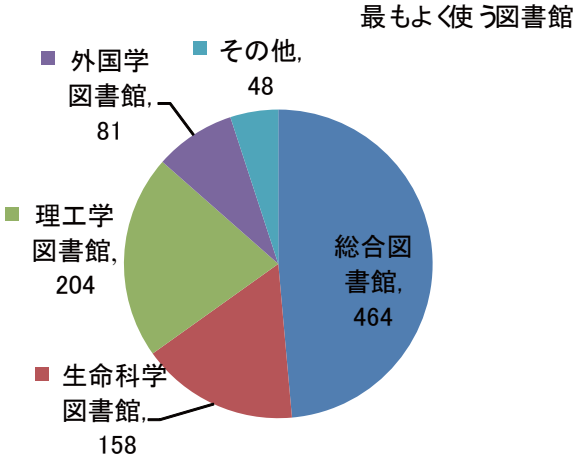
LibQUAL+® は、米国研究図書館協会（ARL）が図書館のサービス品質を測定するために、顧客サービス品質測定（SERVQUAL）を基に開発した調査ツールです。22項目にわたる調査項目に対し3種類（最低限、期待、実際）のサービスレベルを利用者が点数化した結果に基づき、①サービスの姿勢（Affect of Service, AS)、②情報のコントロール（Information Control, IC)、③場所としての図書館（Library as Place, LP）という3つの側面から図書館サービスの品質を評価するものです。大阪大学での実施は2008年に引き続き2回目となります。

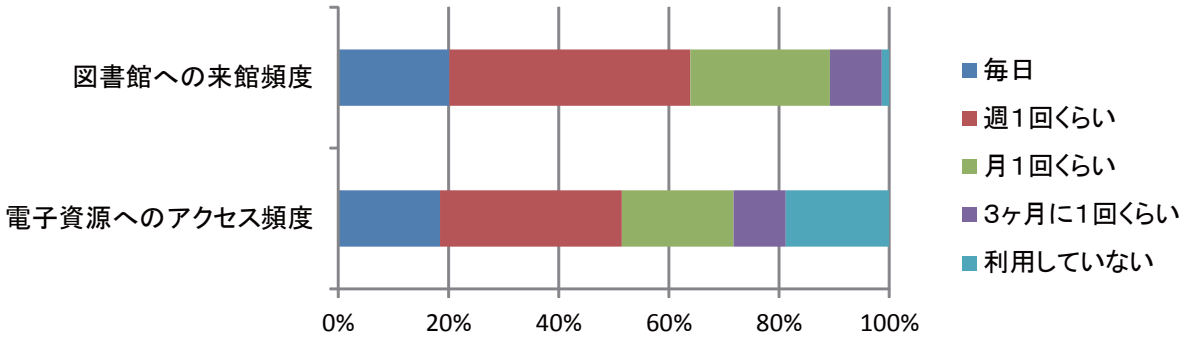
地域に生き 世界に伸びる　Live Locally, Grow Globally
OSAKA UNIVERSITY
大阪大学
図書館をもっと使いやすくするために…

３．回答者の内訳

有効回答数は、955 件（学部生 419、大学院生 340、教員 180、図書館スタッフ 7、職員 9）でした。回答率は、調査対象者（学部、大学院生、教員の在籍数）の 3.5% にとどまりました。これは前回の回答率の半分以下であり、インセンティブ（景品）がなかったことが大きな原因になったものと捉えています。なお、回答中「図書館へ足を運ぶ頻度を教えてください」の設問で、「利用していない」とする回答数は、13（1.37%）、「図書館のウェブページから電子資源にアクセスする頻度を教えてください」の設問で「利用していない」とする回答数は、178（18.78%）であることなどから、今回の結果は来館利用の多い、よく図書館を利用する層が回答者の中心になったものと捉えています。







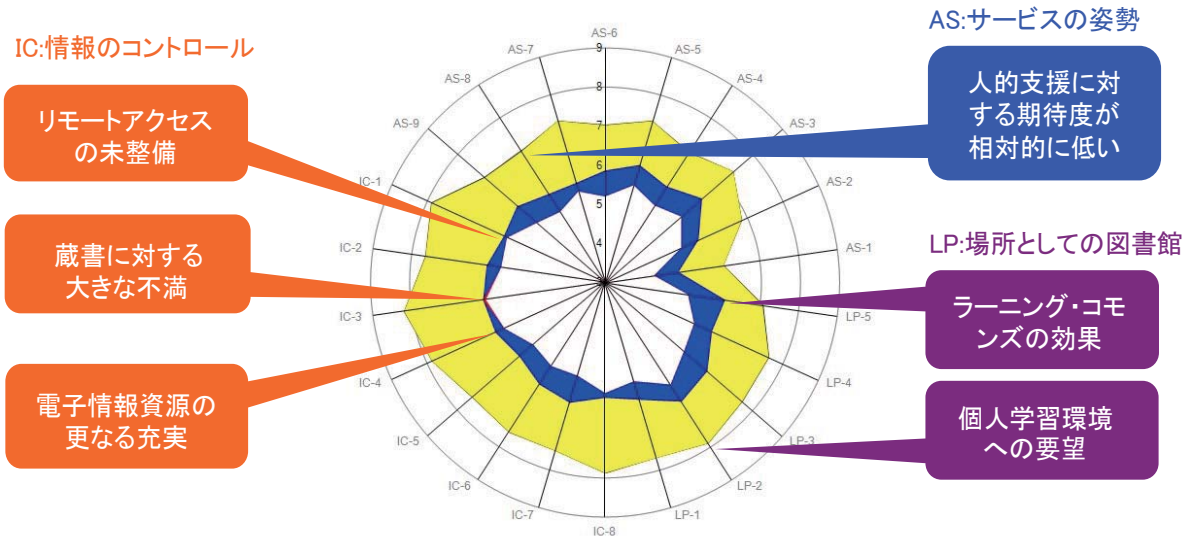
４．集計結果の概要

（１）全体

今回の集計結果を前回調査と比較してみると、最低限これだけは必要であると回答されたサービスのレベルが前回より上がったことが特徴的にみられます。これは回答者に占める図書館をよく利用する層の比率が多かったためと捉えており、全体的な傾向は前回のアンケート結果と同じであったと考えています。図書館をよく利用する層は、図書館のサービス内容を評価もしているが要求するレベルも高いため、このような結果となって表れたものとみています。

附属図書館では、前回調査後に総合図書館と理工学図書館の耐震改修をおこなっており、アンケート結果から新たに整備したラーニング・コモンズの効果を見て取れますが、依然グループ学習よりも個人学習環境への要望の方が根強いことがわかりました。また、今や研究に必要不可欠となっている電子情報資源の更なる充実と電子情報のリモートアクセスへの強い要望が明らかになっています。

一方、人的支援に対する期待度が相対的に低くなっていますが、このことに対しては、利用者のニーズをよりよく把握し、サービス内容を再構築していくことが必要であると考えています。

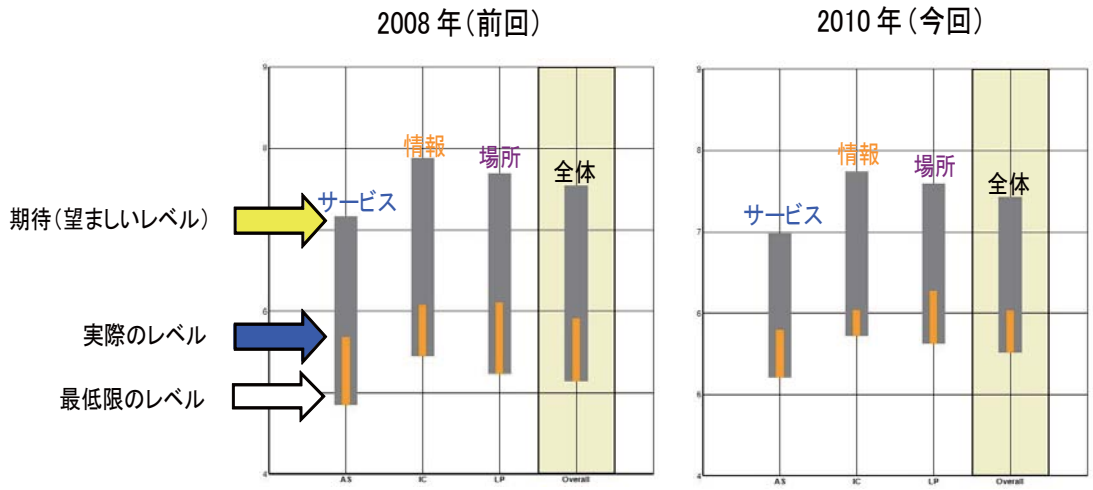


「最低限」「期待」「実際」のサービスレベルの値とレーダーチャートの色との関係

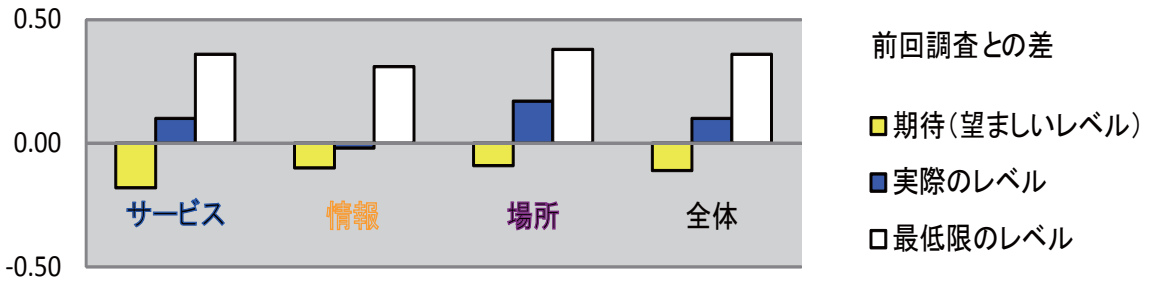
期待と実際のギャップ：望ましいレベルと実際のレベルの差
（幅が広いほどギャップが大きい）

実際と最低限のギャップ：許容できる最低限のレベルより実際のレベルが上回っている場合の差

実際と最低限のギャップ：許容できる最低限のレベルより実際のレベルが下回っている場合の差

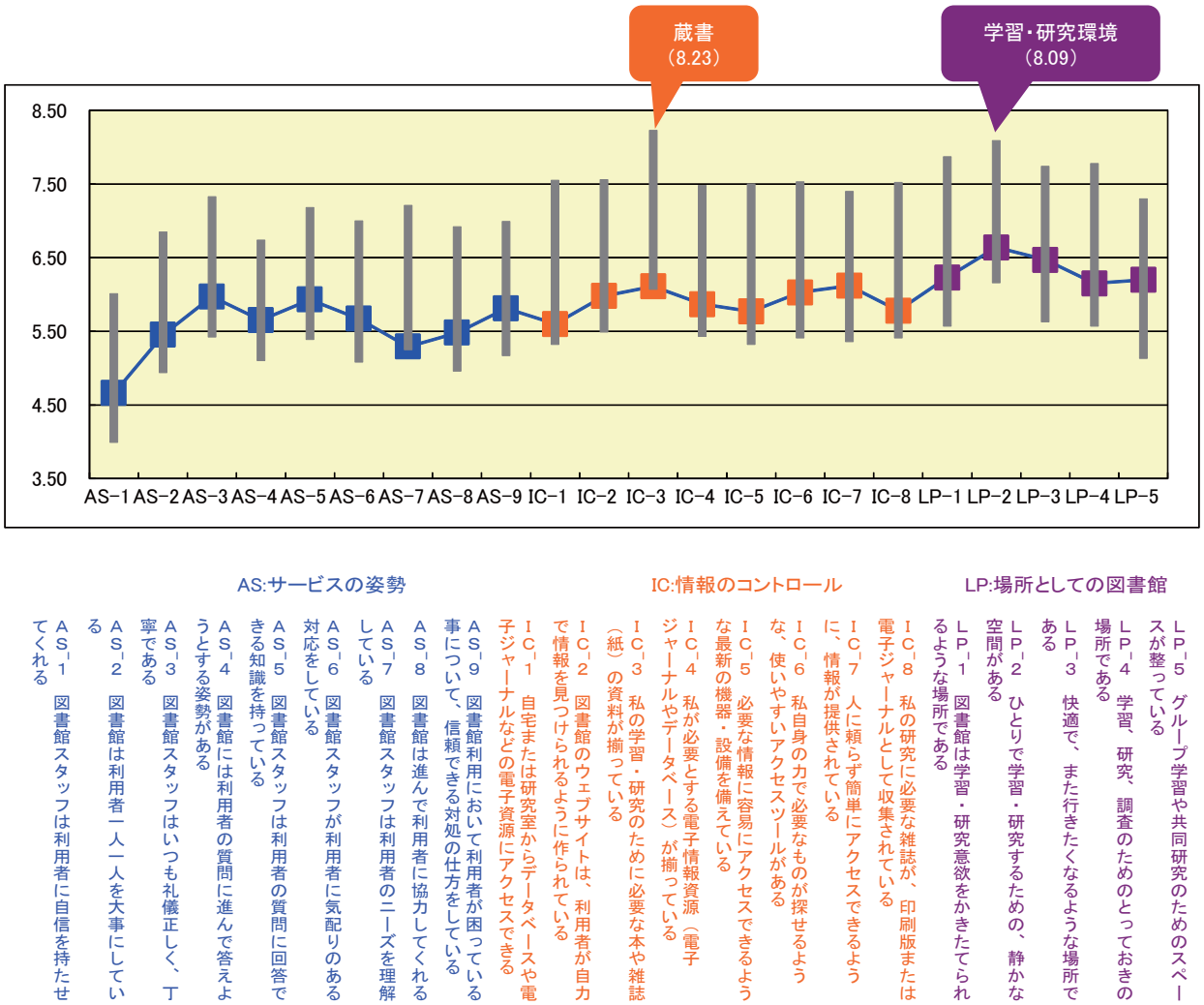


	サービス		情報		場所		全体	
	2008年	2010年	2008年	2010年	2008年	2010年	2008年	2010年
期待（望ましいレベル）	7.16	6.98	7.84	7.74	7.68	7.59	7.53	7.42
実際のレベル	5.69	5.79	6.06	6.04	6.11	6.28	5.93	6.03
最低限のレベル	4.85	5.21	5.40	5.71	5.23	5.61	5.15	5.51



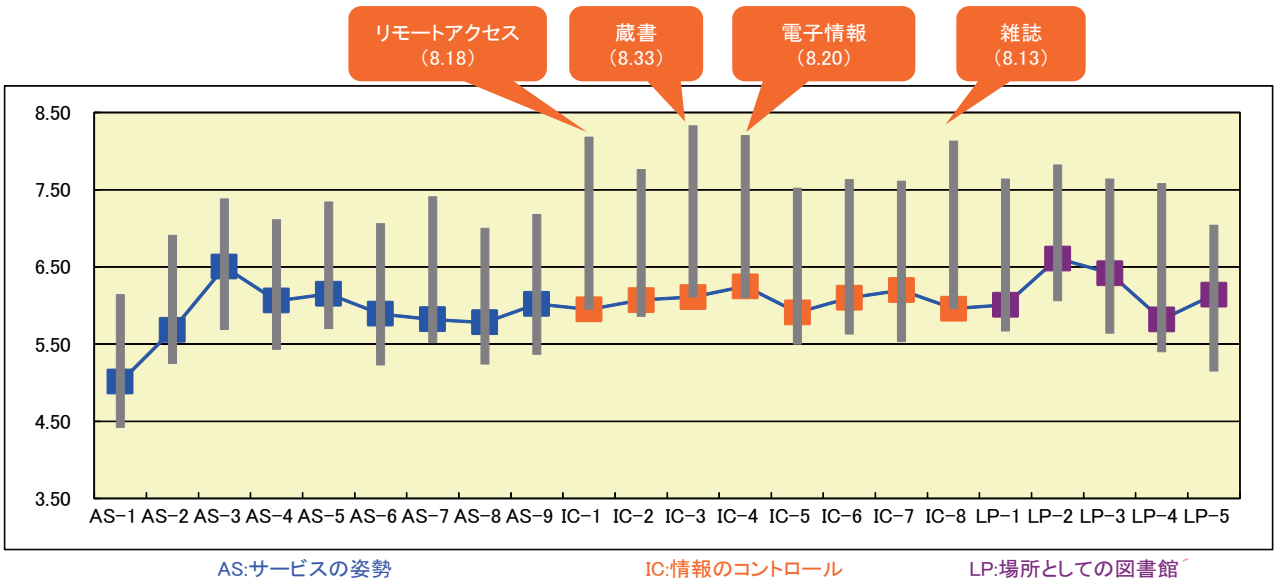
（2）学部生

蔵書（8.23）、学習・研究環境（8.09）への期待度が前回同様に高くなっています。場所としての図書館評価は高まっていますが、蔵書の充実が強く要望されています。



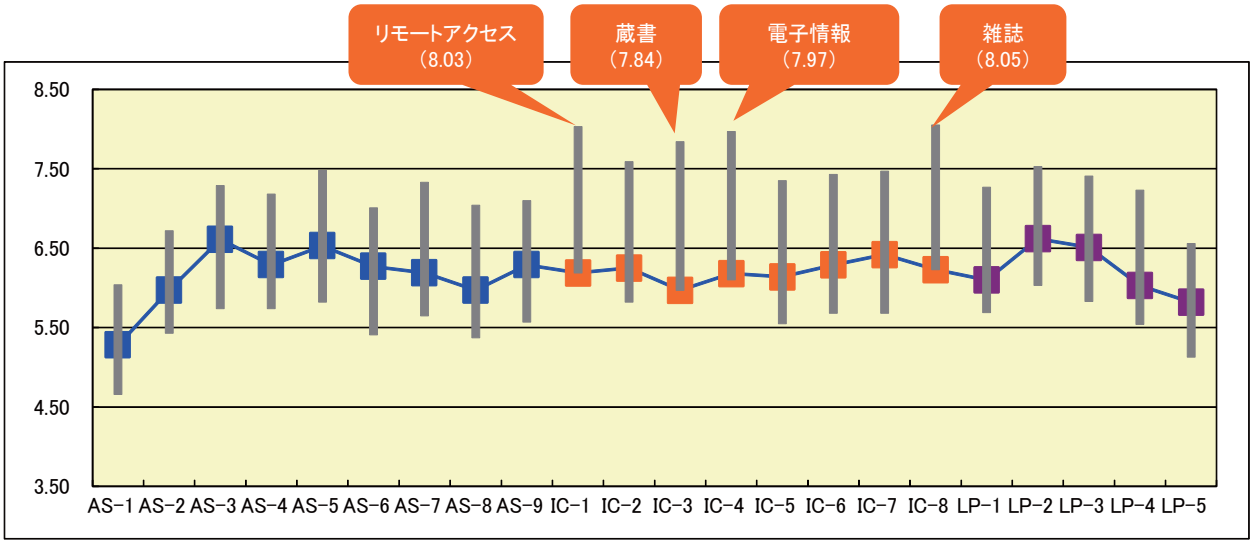
（3）大学院生

蔵書（8.33）、電子情報（8.20）、電子情報へのリモートアクセス（8.18）、雑誌（8.13）への期待度が高くなっています。蔵書・電子情報への要望がますます増加していることがうかがえました。



（4）教員

雑誌（8.05）、電子情報へのリモートアクセス（8.03）、電子情報（7.97）、蔵書（7.84）への期待度が高くなっています。データベースや電子ジャーナルなど電子資源のみならず紙媒体についても更なる整備が必要であり、電子情報のリモートアクセスへの要望が強くあらわれています。



5．自由記述

自由記述欄にお寄せいただいたご意見の中で特に多かったものは、「図書館資料の充実」、「開館時間の延長」、「適切な空調温度」の3点でした。

附属図書館ではお寄せいただいたご意見に応えるため、開館時間の繰り上げ試行などを実施いたしました。今後もご要望にできるだけ応じられるよう多くの課題に対して改善に努めていきたいと考えています。

6．図書館サービスの向上に向けて

附属図書館では、アンケート調査結果を3つの側面から以下のように捉えています。

①サービスの姿勢：

人的支援の要望が低いのではなく期待に至らないことが大きな問題であり、特に学部生の図書館をよく利用する層に評価されていないことを重く受け止めています。

②情報のコントロール：

電子資源（電子ジャーナルやデータベース）と蔵書（紙媒体）の整備は、図書館サービスをおこなう上で根幹をなすものであり、明確な方針を基に更なる整備を進めていきたいと考えています。

③場所としての図書館：

人的支援の実践の場であるラーニング・コモンズの更なる拡充を図ると同時に、個人学習のための快適性を向上させていきたいと考えています。

7．さいごに

利用者アンケート調査は今後も定期的（隔年）に実施する予定です。図書館が担うべき役割、利用者のニーズ、図書館サービスの質とのギャップを縮めるよう、図書館サービスの改善に努めていきます。

なお、アンケート調査の結果報告書は、後日、図書館ホームページで公開する予定です。

http://www.library.osaka-u.ac.jp

産業科学研究所図書室　　【シリーズ　図書室めぐり】

産業科学研究所は、吹田キャンパスのスクールバス「工学部前」バス停のすぐ近くにあります。「自然科学に関する特殊事項で産業に必要なものの基礎的学理及びその応用の研究」を目的とした、国内でも有数の理工系総合研究所です。

研究所内にある産業科学研究所図書室は、主に理工学系の図書・雑誌を所蔵しています。

研究所管理棟の正面玄関を入り、階段またはエレベータで２階に上がれば、産業科学研究所図書室の入り口が見えます。

正面玄関から階段を２階に上がれば、左手に図書室の入り口が見えます。

図書室内

人気の図書室奥の個席

耐震改修し、2010 年 9 月に再開した図書室は、以前よりも少し天井が高くなり、大きな窓や吹き抜けから室内に光が差し込み、外の景色を楽しむことができます。木製の落ち着いた色の家具を配し、明るく居心地のいい空間になっています。

座席には情報コンセントが用意され、LAN ケーブルの貸出も行っているため、パソコンを利用しながら、資料を利用することができます。図書室奥の、広々とした窓側の個席は、特に人気が高いそうです。

大阪大学の方であれば、学部生から利用することができます。ぜひ一度、図書室を覗いてみませんか？

HP　http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/labs/lib-web/
TEL　06-6879-8394
開室時間　平日 9:00 ～ 17:00（土日・祝日・年末年始は休室）

笑顔の図書館員がお待ちしています

微生物病研究所図書室　　【シリーズ　図書室めぐり】

微生物病研究所図書室は、吹田キャンパス西端にある微生物病研究所の本館１階にあります。本館正面玄関を入ってすぐ右にあり、どなたでも利用することができます。

微生物病研究所図書室は、微生物学・免疫学を中心に細胞学、遺伝学、組織学、発生学、生化学、薬理学、病理学、細菌学、腫瘍学等の図書・学術雑誌を主に収集しています。寄生虫学関係の蔵書には、他機関であまり所蔵されていないものもあります。

耐震改修工事を終えて、2010年7月にリニューアル・オープンしたばかり！入口はガラス張りで、開放的な明るい雰囲気になりました。閲覧机・個人机も新しく、快適な学習環境です。

教科書コーナー
　ライフサイエンス分野の重要なテキストブックを集めた「教科書コーナー」。微研の先生に推薦していただいたタイトルなど、約60タイトルを揃えています。新版が出版されたらすぐに入れ替え、常に最新版を利用できるようになっています。

図書室には、常時スタッフがおり、貸出・返却（どこでも返却可）、複写（私費・校費）、文献取り寄せ、参考調査などのサービスを行っています。微研の方にももっと活用していただきたいと思います。
　また、微研所属の方に限らず、ライフサイエンス分野の学習・研究に利用できる図書室ですので、ぜひ訪ねてみてください。

HP　http://www.biken.osaka-u.ac.jp/biken/library/index.htm
TEL　06-6879-8359
開室時間　平日 9:00～17:00（土日・祝日・年末年始は休室）

微研ミュージアム

　図書室近くにオープンした微研ミュージアムには、微研所蔵の貴重書も展示されています。

教員著作寄贈図書のご紹介 2010.Sept. ～ Dec.

寄贈者氏名（所属）※敬称略	書　　名
吉野勝美（名誉教授）	海の幸、里の幸、山の幸：番外研究余談
田野村忠温（文） 石井正彦（文）	コーパス日本語学の新展開
河森正人（人間科学）	タイの医療福祉制度改革
中山康雄（人間科学）	科学哲学（ブックガイドシリーズ基本の 30 冊）
森田靖（理）	Stable radicals：fundamentals and applied aspects of odd-electron compounds
飯野守男（医）	これで安心！診療放射線技師のためのよくわかるオートプシー・イメージング(Ai)検査マニュアル
	Autopsy imaging ガイドライン
中山邦夫（医）	シックハウス症候群に関する相談と対策マニュアル
高田健治（歯）	高田の歯科矯正の学び方：わかる理論・治す技術
中野貴由（工）	Metals for biomedical devices
	医療用金属材料概論
矢吹信喜（工）	CONVR 2010：proceedings of the 10th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality
里内克巳（言語文化）	マーク・トウェイン文学／文化事典
山下仁（言語文化）	批判的談話分析入門：クリティカル・ディスコース・アナリシスの方法
渡辺秀樹（言語文化） 大森文子（言語文化）	コーパスを活用した認知言語学
義永美央子（国際教育交流セ）	言語と文化の展望

総合図書館 C 棟トイレ改修

総合図書館C棟階段踊り場のトイレ及び周辺の電気設備改修工事を9月21日から1月7日までおこないました。工事期間中は何かとご不便をおかけいたしました。
トイレは1月7日から使えるようになっています。ご利用ください。

学生選書 Web を実施

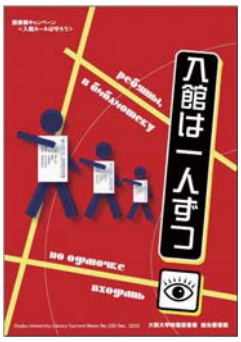
毎年秋の恒例企画となった「学生選書Web」を今年も開催しました（11月15日～30日）。今回の参加者は31名。選ばれた図書は、2月頃に各図書館に到着する予定です。ご期待ください。
また、11月6日にScienthrough主催で開催された「知的書評合戦ビブリオバトル@まちかね祭」で、6月の「学生選書ツアー」で選ばれた本が紹介本として取り上げられています。そのイベントの効果もあり、今回の「学生選書Web」に多数の方の参加を得ることができました。関係者のみなさんには厚く御礼申し上げます。図書館では、今後も、こうしたコラボレーションに取り組んでいきたいと考えています。

※学生選書は「大阪大学未来基金（大学）」より助成を受けて実施しています。

大阪大学
未来基金

「知的書評合戦ビブリオバトル@まちかね祭」で紹介された「学生選書」図書

図書館利用マナーキャンペーン「食べ物厳禁」「入館は一人ずつ」



図書館では、2ヶ月毎に利用マナー・キャンペーンをおこなっています。10月から11月のテーマは「食べ物厳禁」、12月から1月のテーマは「入館は一人ずつ」です。利用マナーを守り、快適に図書館が利用できるよう心がけましょう。

懐徳堂展「大阪“知”の源流」に出展

大阪歴史博物館で懐徳堂記念会創立100周年を記念して「大阪“知”の源流」展が10月27日から12月20日までおこなわれました。この展示に附属図書館が所蔵する懐徳堂文庫から、最近修復したものを含め多数の資料を出展しました。

総合学術博物館で「線の表現力」展を開催

総合学術博物館と附属図書館は、文学研究科の共催、芦屋市立美術博物館の特別協力、21世紀懐徳堂の協力を得て「線の表現力」展を10月27日から1月8日まで総合学術博物館でおこないました。

この展示には、附属図書館の所蔵する須田国太郎「能・狂言デッサン」を多数出展しました。

BBIH 提供開始

英国王立歴史学会（Royal Historical Society)によるイギリスおよびアイルランドの歴史に関する文献情報データベースBibliography of British and Irish History（BBIH）が利用可能となりました。

Century of Social Sciences を導入

Century of Social Sciences は、トムソン・ロイター社が提供する書誌情報・引用文献リサーチツールで、1900 年から 1955 年にかけての社会科学分野の包括的なバックファイルと引用文献データです。社会科学分野における 300 誌以上の雑誌を収録しています。このことにより、Web of Science は、これまで導入しているものと合わせて社会科学分野についてもフルアクセスが可能となりました。

カフェ「知のオープンアクセス」を開催

附属図書館は、CSCD と共催で 12 月 3 日にカフェ「知のオープンアクセス」をステューデント・コモンズでおこないました。

ゲストにサイエンス・サポート・アソシエーション（SSA）代表の榎木英介先生をお招きし、「社会の中で研究する」をテーマに議論しました。延べ 17 名の参加者があり、経過は Twitter を使って発信されました。http://togetter.com/li/75229。

総合図書館で早朝開館を試行

総合図書館では、利用者アンケートで要望の多かった開館時間の繰り上げを次のとおり試行実施しました。

＊ 試行内容：　授業期間中の平日の開館時間を9時から8時40分に繰り上げる。
＊ 試行期間：　平成22年12月1日から平成23年2月16日
＊ なお、相互利用カウンター及び参考調査カウンターの受付時間は、従来通り平日9時から17時とする。

石橋中学校の学生が職場体験

附属図書館は、地域貢献の一環として地元中学校の職場体験学習に協力しています。今年は総合図書館で12月7日から9日の3日間、池田市立石橋中学校の男子生徒1名が大学図書館のいろいろな仕事を体験しました。

最初のうちは大学図書館の広さやはじめて体験する仕事に驚いていた生徒も、図書館職員の指導を受けながら徐々に緊張がほぐれたようで、カウンターでの貸出や返却、到着した本や雑誌の受付、目録の作成などに積極的に取り組んでいました。

クリスマス・コンサート「室内楽アンサンブルの夕べ」を開催

クリスマス・コンサート 2010「室内楽アンサンブルの夕べ」を 12 月 21 日に総合図書館 6 階図書館ホールでおこないました。第 5 回目となる今回は、大阪大学の教職員・大学院生を中心とした「大阪大学室内楽アンサンブル」をゲストにお迎えしました。

当日は、あいにくの雨となりましたが、近隣の一般市民を含む 88 名の参加者があり、クリスマスメドレーなどの演奏を一時間にわたってお楽しみいただきました。アンケートには「くつろげるコンサートでした」、「毎年楽しみにしています」といった感想が寄せられました。

図書館 TA によるミニ講習会を開催

総合図書館および理工学図書館では、10月から12月にかけてラーニング・コモンズで図書館TAによるミニ講習会をおこないました。講習会のテーマは、「OPACの便利な検索方法（理工学図書館）」「Excelの上手な使い方（理工学図書館）」「エスノグラフィというフィールドワーク（総合図書館）」など、図書館サービスの利用方法やソフトウェアの上手な使い方といったものから、TAの研究分野に関するものまで多様なものでした。各テーマとも20～30分の講習会で、総合図書館では4つのテーマで計8回、理工学図書館では8つのテーマで計8回おこないました。

「論文をどう書くか、文献をどう読むか」プチ・ゼミナールを開催

標記プチ・ゼミナールを12月7日から1月11日まで4回に分けて総合図書館ラーニング・コモンズでおこないました。講師は大学教育実践センターの堀一成准教授と附属図書館の赤井規晃専門職員が担当し、講義と実習を通して論文の書き方のコツを学ぶことを目標としました。各回のテーマは「書く①　論文とは？」「読む：書くための読み方」「書く②　論文を組み立てる」「まとめ、個人発表」でした。プチ・ゼミナールには8名の受講申し込みがあり、各回とも熱心に受講する姿が見られました。

「EndNote Web 講習会」を実施

文献管理ツール「EndNote Web」の国内代理店から講師を招き、11月16日と18日に豊中地区・吹田地区・箕面地区で計4回にわたって実習つき（一部の会場を除く）の講習会をおこないました。

講習会への参加を事前予約制としたところ、4会場のうち3会場までが予約で満席になり、講習会への要望が高いことをうかがわせました。参加者数は延べ227名でした。

「SciFinder Web 利用講習会」を実施

化学分野のデータベース SciFinder の国内販売元である（社）化学情報協会から講師を招き、SciFinder Web の利用講習会を9月7日と8日に豊中地区と吹田地区で計3回にわたっておこないました。参加者は延べ166名でした。

留学生オリエンテーション（2010 年秋）

総合図書館で9月30日に10月から大阪大学で受入予定の留学生を対象とした図書館オリエンテーションと館内ツアーを英語と日本語でおこないました。参加者は134名でした。

「情報活用基礎」「情報探索入門」で図書館活用法を説明（2010 年度後期）

全学共通教育科目「情報活用基礎」の1コマを使って図書館職員が図書館活用法を説明しました。10月14日にサイバーメディアセンター豊中教育研究棟情報教育教室で、Web版テキストに基づいて図書館の概要を説明したあと、OPACの検索実習をおこないました。

また、全学共通教育科目「情報探索入門」の2コマを使い、「情報活用基礎」の内容を発展させた、データベースや電子ジャーナルを中心とした説明を10月13日と20日におこないました。

Study-AID Web 連携企画「教員のおすすめ本紹介」

総合図書館では、Study-AID Web との連携企画として、総合図書館特設コーナーで「教員のおすすめ本紹介」を12月6日から1月31日までおこないました。第1回目となる今回は、堀一成准教授に「文系学生におすすめする理系の本・理系学生におすすめする文系の本」と題して、図書を24冊選んでいただき、その図書をコメント付きで展示しました。

図書のリスト及びコメントは、リーフレットとして同コーナーで配布するとともに、大学教育実践センターが開設した Study-AID のウェブページでも公開されました。展示した図書の人気は大変高く、ほとんどの図書が常に貸し出されていました。

Study-AID Web: http://www.study-aid.net/

セミナー「変容する大学図書館」を開催

国立大学図書館協会近畿地区協会が主催する標記セミナーを9月16日に総合図書館6階図書館ホールでおこないました。

図書館ではラーニング・コモンズの開設を一つの契機として、教員と連携しながら、図書館職員がより積極的に学習支援を担っていくことが語られるようになってきました。また、文書館や出版会などと連携する事例もあります。参加者は基調講演・事例発表・パネルディスカッションを通して、変容する大学図書館の現状と今後のあるべき方向をさぐりました。

今回の研修は、大学図書館近畿イニシアティブの後援をうけ、近畿地区の公立大学・私立大学にもひろく参加を呼びかけたところ、80名を超える多数の参加者がありました。

学術情報リテラシー教育担当者研修を開催

国立情報学研究所と大阪大学附属図書館との共催による平成22年度学術情報リテラシー教育担当者研修（大阪大学会場）が、10月20日から22日の3日間にわたり、総合図書館を会場として開催され、全国から国公私立大学の図書館職員53名が受講しました。

この研修は、講義やグループ討議を通じて、各大学で学術情報リテラシー教育を企画・運営するための知識と技術を習得することを目的としており、平成15年度から実施されています。

懐徳堂文庫「修復研修会」を実施

総合図書館では、12 月 16 日に近畿地区国公私立大学図書館職員を主な対象として、「『懐徳堂文庫』資料修復研修会～修復技術の今・昔～」をおこないました。

この研修会は、平成21年度に大阪大学後援会及び朝日新聞文化財団の助成を受けて実現した「懐徳堂文庫」を代表する谷文晁作「帰馬放牛図」をはじめ著名な資料33点の修復・保存の成果報告を兼ね、定期的に実施している「図書関係業務研修会」として企画されました。

研修会には、学内の教職員・学生37名のほか、近畿地区の大学図書館職員ら計66名が参加しました。参加者からは、通常見ることができない修復作業は興味深く、資料の歴史的経緯、修復の考え方、具体的な修復作業と保存工程について一層理解が深まったとの声が聞かれました。

全国遺跡資料リポジトリ・オープンカンファレンスを開催

総合図書館6階図書館ホールで12月17日に「全国遺跡資料リポジトリ・オープンカンファレンス　―文化遺産の記録をすべての人々へ！―」が、全国遺跡資料リポジトリ推進会議の主催、デジタルリポジトリ連合(DRF)の後援でおこなわれました。

昨年おこなわれたシンポジウムと同様、今回も大学図書館の関係者ばかりではなく、考古学を担当する大学教員、地方公共団体の埋蔵文化財関係者など81名の参加があり、活発な議論がおこなわれました。

Twitter による情報発信開始

OsakaUnivLib

附属図書館では、Twitter による情報提供サービスの試行を 8 月 19 日からおこなっていましたが、このほど正式サービスに移行しました。

http://twitter.com/OsakaUnivLib　をフォローしてください。

なお、このアカウントは情報発信専用となっています。図書館へのご要望・ご質問は従来通り、図書館のウェブページに記載しているメールアドレス宛にお願いします。

メールマガジン「阪大ライブラリーニュース」および「図書館瓦版」を創刊

附属図書館では、メールマガジン「阪大ライブラリーニュース」を創刊しました。図書館からのニュースを毎週お送りするほか、毎月下旬に翌月の開館予定を配信しています。登録方法などは附属図書館ウェブページをご覧ください。

http://www.library.osaka-u.ac.jp/libnews/lnidx.htm

また、図書館のニュースをより広くお知らせするため、図書館瓦版の発行を12月からはじめました。「図書館瓦版」(縦題字)は、学内各所に掲示しています。「附属図書館かわらばん」(横題字)は、総合図書館・生命科学図書館・理工学図書館・外国学図書館で配布しているほか、附属図書館ウェブページに最新号を掲載しています。ご利用ください。

平成 21 年度年次報告および附属図書館要覧（英文版）を発行

このたび「平成21年度大阪大学附属図書館年次報告・自己点検評価報告書」および「附属図書館要覧2009/2010（英文版）」を発行しました。附属図書館ウェブページで公開しています。ご利用ください。

年次報告　http://www.library.osaka-u.ac.jp/nenzi/nenpoidx.htm

要覧　　http://www.library.osaka-u.ac.jp/yoran/e-yoran.htm